



## 6 月 3 日 (金) に研究会・協力会の総会が行われました

令和 2 (2020) 年度は総会の開催を断念し、令和 3 (2021) 年度は基本オンラインで実施した大阪府高等学校生物教育研究会の総会と本協力会の総会は、3 年ぶりに大阪府立天王寺高等学校で対面による実施ということになりました(オンライン参加も可)。比較的広い会場に、参加者も 20 名程度と小規模な総会にはなりましたが、久しぶりに対面で実施できたという安堵感の感じられる総会となりました。研究会の総会と協力会の総会の間に、文部科学省視学官藤枝秀樹先生のご講演もありました。令和 3 (2022) 年につづく 2 度目のご講演でしたが、昨年度は Zoom でご自宅からのご講演でしたので、対面で親しく話をうかがえたことは、大変喜ばしく感じました。

比較的淡々とした総会になりましたが、とりあえず協力会の総会の報告をさせていただきます。

1. 会長挨拶 本会会長の大島みどり先生よりご挨拶がありました。内容の多くは、対面で実施できたことへの感謝と、来年度大阪で実施される日本生物教育会全国大会に向けての協力会の積極的な取り組みについての決意が述べられてものでした。
2. 昨年度会務報告・今年度活動予定 会務報告部分では、コロナ禍の影響で協力会だよりの発行、会費請求、会費納入者への研究会誌の発送以外の活動ができなかったことが報告され、今年度の活動予定についても、コロナ禍の継続により昨年度程度の活動しかできないであろうことが報告されました。ただし、来年度が大阪で日本生物教育会全国大会が実施されるのに当たり、研究会に対して例年よりも強い支援が必要であることから、その方法を模索することも今年度の課題として報告されました。
3. 昨年度決算報告・今年度予算 下記の通りの決算報告が行われ、次ページの今年度予算が確認されました。

2021 年度会計報告					
収入の部			支出の部		
前年度繰越金	290,075	円	たより・会誌郵送料	17,034	円
会費・寄付金	139,000	円	研究会への補助金	100,000	円
雑収入	0	円	会費振込手数料	6,288	円
収入合計	429,075	円	支出合計	123,322	円
会費には一部・次年度分を含む					
差引残高 305,753 円			これを次年度に繰り越します。		
2022 年 5 月 1 日 会計担当 中井一郎					
監査の結果、適正に処理されていたことを確認しました					
2022 年 5 月 10 日 会計監査 橘 淳治					

4. 助成金贈呈 本協力会会長大島みどりより、研究会会長柴原信彦先生に、協力会からの助成金(会計処理上は協力会への補助金)10 万円の贈呈式が行われました。(次ページ写真)

2022 年度会計 予算 (案)			
収入の部		支出の部	
前年度繰越金	305,753 円	たより・会誌郵送料	20,000 円
会費・寄付金	150,000 円	研究会への補助金	100,000 円
雑収入	0 円	会費振込手数料	8,500 円
		予備費	327,253 円
収入合計	455,753 円	支出合計	455,753 円



## 対面で実施された北海道大会に参加して

大阪府高等学校生物教育研究会協力会事務局

追手門学院大手前高等学校 北浦隆生

日本生物教育会第 76 回全国大会(北海道大会)へ行ってきました。協力会メンバーでは、寺岡氏、中井氏、私の 3 名で、研究会からは次年度開催に向けて紫原会長、岡本事務局長はじめ 10 名以上の参加がありました。理化学協会との共同開催で 8 月 2 日から 5 日まで(内、生物は 3 日から 5 日)札幌市立札幌開成中等教育学校を会場に開催されました。大会主題は「新たな未来を築く理科教育」~科学的に探究する資質・能力を育成するために~ と新カリの実施に合わせて物理・化学と生物の全国大会を合同で実施するという企画でした。前回の北海道大会で当時の北海道生物教育会と理科教育会の会長を兼任されていた横山先生の合同開催の流れを引き継いだこととなります。故山極先生(視学官)が高校の理科の研究会をまとめて文部科学省と話をするのがいいんだとおしゃっていたことを思い出します。

大会では、藤枝視学官の文部科学省講和(理化学研究会の部)「これからの理科教育を考える-新学習指導要領改訂のポイントと学習評価-」と北海道大学小林快次教授の記念講演「恐竜研究の最前線」が行われました。研究協議が事前申込制で 12 の分科会に分かれて提言とグループワークを組み合わせる充実した活動が行われました。研究発表は 10 会場が理化学、4 会場が生物でしたが、理科で共通の部分もあり、興味深い内容でした。また、科学の広場と称して北海道の先生が実験観察の実物のデモンストレーションを行われており、興味深いものでした。コロナの関係で北海道の先生方との意見交換会(懇親会)がなかったのは残念でしたが、自主的に東京と大阪の先生が集まり意見交換会が行われました。コロナ感染防止と対面開催で北海道の先生方のご努力に感謝して報告といたします。

## さあ、2023 年度は大阪大会です

北海道大会で発表された大阪大会の概要を 3, 4 ページに掲載します。協力会といってもさまざまな取り組みを行うつもりですが、皆様方もぜひ OP(Old Boy、Old Girl ならぬ、Old Person の意味です)として、金銭的な補助、大会への参加、大会実施面での協力など、さまざまな支援をご検討ください。

# 2023 年度

## 日本生物教育会（JABE）第 77 回全国大会

### 大阪大会へのご案内

1. 大会主題   ほんまにおもしろい生物教育
2. 主催       日本生物教育会・大阪府高等学校生物教育研究会
3. 開催期日     2023 年 8 月 9 日(水)～11 日(金)  
(一部現地研修は 13 日まで)
4. 主会場       近畿大学 東大阪キャンパス  
近鉄大阪線 長瀬駅から徒歩 10 分  
近鉄奈良線 八戸ノ里駅から徒歩 20 分・バス 10 分  
                  ※直行バス（100 円）があります。  
JR 俊徳道 バス 15 分  
                  ※直行バス（100 円）があります。
5. 大会日程

	8:30	9:00	10:30	11:00	12:00	15:00	18:00	20:00
8 月 9 日						理事会		
10 日	受付	開会式 総会		口頭発表		研究協議	意見交換会 (18:30～)	
				ポスターセッション				
11 日	受付	講演会	シンポジウム	現地研修(12:30～)				
12 日	現地研修							

6. 記念講演  
近畿大学 水産研究所白浜実験場 特任教授 升間 主計  
近畿大学水産研究所の養殖研究について～近大マグロを中心に～
7. 研究協議  
第 1 分科会：ICT 活用  
第 2 分科会：探究活動

第 3 分科会：学ぶ意欲を引き出す授業づくり

第 4 分科会：生命倫理

8. シンポジウム

教員・大学の先生・高校生を交えて生物教育について考える

9. 大会記念冊子

1 章：ほんまにおもしろい授業づくり

2 章：課題研究の進め方

3 章：生徒研究発表要旨集

10. 現地研修コース

A：山コース（大台ヶ原）2泊3日

B：海コース（大阪湾）1泊2日

C：里山コース（箕面）1泊2日

D：海遊館コース：半日

E：動物園コース：半日

F：ホネホネコース（自然史博物館）：半日

G：DNAコース：半日

H：植物園コース（大阪公立大学附属植物園）：半日

I：南港野鳥園コース：半日

J：マンモスコース（近畿大学生物理工学部）：半日

K：近畿大学農学コース：半日

11. 大会参加申し込み

Web サイトよりご案内申し上げます。令和5年5・6月の予定です。

<http://seiken.sub.jp/kakari/nisseikyou/index.htm>

12. 問い合わせ先

大阪大会本部事務局

大阪教育大学附属高等学校池田校舎 生物科 岡本 元達

TEL：072-761-8473 FAX：072-762-1076

E-mail：gentatsu0311@gmail.com

## 諸連絡

### 1. 会員登録（会費振り込み）をお願いします。

次の報告で今年度の会員登録者（会費振り込み済）をあげさせていただいております。会員登録をいただきましたみなさまには、研究会から贈呈いただいた今年度の会誌を同封しております(研究会から配布されるであろう賛助会員及び総会参加者には同封していません)。

昨年度の会員で、今年度登録をされていない方には、本協力会だよりとともに振込用紙を送らせていただきました。2023年の全国大会時には研究会への補助も増やす必要があるものと考えております。よろしければ会員登録をお願いします。会費は正会員 3,000 円、賛助会員 2,000 円ですが、寄付を上乗せして振り込んでいただいても大歓迎です。

### 2. 令和4(2022)年『大阪府高等学校生物教育研究会協力会』会員

(R4.8.28.現在、敬称略。令和4年度会費納入者名のみを示します)

#### (正会員) (記載順はアイウエオ順)

足立 堯	石崎 英男	井上 慎一	江坂 高志	大江 進	大島 みどり
奥野 善彦	奥本 隆	小畑 和人	加賀 友子	川崎 智郎	河添 純子
北浦 隆生	木村 進	河野 成孝	佐々木 洋一	澄川 冬彦	竹林 隆昭
橘 淳治	田中 正視	辻本 昭信	寺岡 正裕	富田 織江	中井 一郎
長尾 祐司	中野 俊勝	平岡 誠志	廣瀬 祐司	福坂 邦男	古久保 俊子
牧野 修司	松田 仁志	安井 博司	山住 一郎	吉川 浩	和佐 眞宏
渡邊 勉治郎					

(以上 37 名)

#### (賛助会員)

幸川 由美子 柴原 信彦 中村 哲也

(以上 3 名)

### 3. 令和4(2022)年『大阪府高等学校生物教育研究会協力会』役員

- ・会長……大島 みどり      ・副会長……井上 慎一
- ・幹事……北浦 隆生, 中井 一郎, 橘 淳治
- ・賛助会員代表……柴原 信彦 (研究会会長)
- ・事務局 (事務局長……北浦 隆生, 会計……中井 一郎, 会計監査……橘 淳治)

事務局へのお問い合わせは、追手門学院大手前高等学校(06-6942-2235)中井

または、北浦 隆生 (586-0007 河内長野市松ヶ丘東町 1349-1)

中井 一郎 (545-0001 阿倍野区天王寺町北 3-4-15) まで。

#### 4. 会員からの近況報告（敬称略）

この欄は、振込用紙やはがき等により連絡があったものを記載します。皆様もどうか一報ください。

事務局到着順で記載しております。句読点は適宜事務局でつけています。

- ・会の運営など大変お疲れ様です。私は元気でおりますが、古希も過ぎ、少々生物界より遠ざかり気味です。  
(牧野 修司)
- ・いつもお世話になっております。協力会だより楽しく拝見させていただきました。ヒメホタル・ゲンジボタル・ヘイケボタル、……干潟の生き物……地元泉州の自然の中で、こどもたちと毎日遊んでおります。  
(田中 正視)
- ・皆様お元気ですか。昨年3月末で奈良学園中高を退職し、SSHの手伝いなどをしております。またお目にかかる機会を楽しみにしております。  
(澄川 冬彦)
- ・日本生物教育会全国大会（大阪大会）がいよいよ来年8月と迫ってまいりました。鋭意、準備を進めている所ですが、よろしくお祈りします。  
(研究会会長 柴原 信彦)
- ・92歳の春を迎えました。大阪大会の2部、箕面のお寺で迎えた早朝の探鳥の集い。準備も含め、懐かしい思い出です。コロナの終息を一日も早く、と祈ります。  
(古久保 俊子)
- ・我が家の建替え工事を担当したハウスメーカーが、此の度地球環境大賞を受賞しました。次世代のために環境保全に勤めているとのことで大変心強く思っています。  
(中野 俊勝)
- ・健康維持を目的に、毎日天王山の麓や水無瀬川周辺を歩いて、自然観察を行うことを楽しみにしております。  
(安井 博司)
- ・明石市民となって早一年。毎日往復3時間30分かけて通勤しています。散歩や旅行も楽しんでますよ。もしお時間ができたら、お声がけくださいね。  
(大島 みどり)
- ・元気です。3つのグループや単独の山歩きを楽しんでいます。住職の務めをし、庭の樹々や草花の世話など安穏の日々です。「物事の終活」の他に「心の終活」の必要性を感じます。(辻本 昭信)
- ・現在、八尾市にある日本バラタナゴ高安研究会でタナゴ池のプランクトン調査に関わっています。プランクトンの顕微鏡写真を撮り、調べています。中学生、高校生を相手に研修会をしているので、希望者があればどうぞ申し込んでください。  
(竹林 隆昭)
- ・大阪わかば高校の立ち上げ、R4年度入試からの日本語指導が必要な生徒選抜実施、勝山高校の閉校を終え、この3月末に退職しました。4月からは資格取得に向け通信制の専門学校で学生をしながら、大阪国際大学と大阪わかば高校で非常勤講師をしています。10年ぶりの授業を楽しんでいます。協力会でできる限りのことをさせていただきたいと思っています。  
(幸川 由美子)
- ・コロナも落ちついたので、何か集まりをいないと行けないですね。  
(橘 淳治)
- ・非常勤講師、週8時間担当、仙北高校バイクですいすい3年目  
(長尾 祐司)

・北浦・中井は、ともに昨年度中に 65 際を迎えて高齢者の仲間入りをしました。ともに本年 3 月末で追手門学院大手前中等高等学校を退任しています。北浦は自宅で孫の守りをする悠々自適生活で、雇用保険を受け取っています(もうすぐ打ち切り)。中井は非常勤扱いで月～水の週 3 回追手門大手前にお世話になっています。 (事務局 北浦 隆生, 中井一郎)

→以上のような事情で、協力会への連絡、一応追手門大手前で受け取れます。

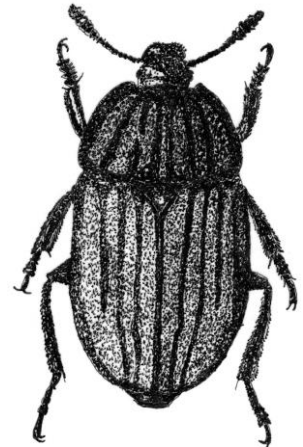
## 「大阪府高等学校生物教育研究会協力会」会則

- 名称** 1 本会は「大阪府高等学校生物教育研究会協力会」と称す。
- 目的** 2 本会は、大阪府高等学校生物教育研究会（以下生物研究会と記す）の活動に協力・援助するとともに、会員相互の親睦をはかり、「生物」について研鑽することを目的とする。
- 事業** 3 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。
- (1) 生物研究会の活動に対する助成
  - (2) 見学・観察・研修会の開催（年 1 回程度の独自開催または生物研究会行事への参加）
  - (3) 懇親会（総会）の開催
- 事務局** 4 本会は、前条の事業を行うため、事務局を本会事務局長の自宅に、会計事務局を本会会計の自宅に置く。
- 会員** 5 本会の趣旨に賛同した次の者を会員とする。
- (1) 正会員（退職の生物研究会関係者）退職会員・名誉顧問・名誉会員
  - (2) 賛助会員（現役の生物研究会関係者）会長・副会長等
- 役員** 6 本会に次の役員をおく。役員は総会で選出し、その任期は 3 年とする。
- (1) 会長 1 名
  - (2) 副会長 1 名
  - (3) 幹事 若干名（事務・会計・会計監査も担当）
  - (4) 賛助会員代表 2 名
- 会議** 7 本会に次の会議を設ける。
- (1) 総会（活動計画報告、決算等を行う。また会員相互の親睦を図る。）
  - (2) 役員会（会長が必要に応じて役員を招集し、会の運営に必要な事項を決める。）
- 会費** 8 本会の会費は正会員については年間 3,000 円、賛助会員は 2,000 円とする。なお、寄付金は会費納入時または随時に受け入れる。
- 会則の改定** 9 本会の会則の改定は、総会において審議し、その決定には出席者の 3 分の 2 以上の同意を要する。
- (附則) 1. 本会の設立年月日は、2009 年 6 月 3 日とする。
2. 本会則は、2009 年 6 月 3 日より施行する。
3. 本会則は、2019 年 5 月 31 日にその一部を改訂し、同日よりこれを施行する。

## 大阪の生き物2 オオサカヒラタシテムシ *Eusilpha jakowlewi similator*

ヒラタシテムシはシテムシ科の甲虫で、シテムシを漢字で書くと「死出虫」、あまり縁起のいい名前ではありませんね。おもに動物遺体などを処理する歩行的昆虫です。名前の善し悪しはおいといて、中井の思い出話にお付き合いください。

私が大学は行ったのは1975年で、入学後すぐに生物研究会というサークルに加入しました。その年の8月にそのサークルの夏合宿が対馬でありました。フェリーを乗りついて対馬の巖原に着き、ユースホステルだった寺で何泊かすごしました。ある日近くの八幡社あるいはその裏山(正確には覚えていません)で、黒くて平らな甲虫を採集しました。調べると「ツシマヒラタシテムシ」という昆虫でした。時は過ぎ、1990年代(すでに大阪で教員をしています)、大阪市が「みどり生き物のマップづくり会議」というプロジェクトを立ち上げ、市民による大阪市内の生き物マップづくりのプロジェクトが始まりました。声をかけられて地区リーダーとなり、市民とともに市内各所で生き物調べをしま



オオサカヒラタシテムシ  
中井は線と点描でしかスケッチができません。全身まっ黒なこの虫をうまく表現できていません。虫の前胸は光沢のある黒で、前翅はつや消しをした黒に光沢のある縦筋が通っています。

した。あるとき(何年何月だったかも覚えていません)、淀川の河川敷で黒くて平らな甲虫を採取しました。あまりに対馬で採取したものと似ているのでその話をしたら、(たぶん兵庫県立人と自然の博物館の八木剛さんだったと思うのですが…)誰かが、それはツシマヒラタシテムシだよと教えてくれました。「ツシマ」がつく名の昆虫が「大阪」にいるのは非常に違和感があったので調べてみると、対馬と大阪周辺にのみ分布している同種とのことでした。

この原稿を書くに当たり調べてみると、現在では対馬と兵庫県をのぞく近畿地方と三重県で見られるようです。正式名称は「ツシマヒラタシテムシ本州亜種」になりますが、亜種名としては「オオサカヒラタシテムシ」という立派な大阪名をもった昆虫です。体長は20数mmで25mmを越えることはあまりありません。ちなみに大阪府や和歌山県では準絶滅危惧種に指定されているようですが、それほど珍しい種ではなく、ふつうに土の道を歩いている印象です。動物遺体がないとあまり現れないので、出会うことが少ないだけだと思います。

ところで、シテムシの仲間はふつう森の遺体処理屋で、森林性であることが多いです。でも私の見たツシマヒラタシテムシもオオサカヒラタシテムシも、比較的明るく乾いたところにいたように思います。まったくの専門外なので、正確な文献はもっていませんが、大阪周辺では淀川水系と大和川水系の河川敷つまり草原に近い環境下で歩いているようです。

なお、近縁種にオオヒラタシテムシ *Eusilpha japonica* があります。大きさも体形も色調もたいへんよく似ていますが、ツシマ・オオサカヒラタの方がやや青みが強いといわれています。また、頭にある1対の触角は、ともに先端部が太く大きくなっているのですが、オオヒラタは先端の4節が、ツシマ・オオサカヒラタは5節が大きくなっていることで区別できるそうです。ちなみにオオヒラタシテムシは、森林性で、河川敷を歩いていることはありません。

(文責 中井一郎)